

大徳二十卷

坂田縁栄女十二
山口秋道

特別
~ 13
4200
7





舞田の源家女

ひを池乃園ありて...
 と忽おろうあさう此祈...
 と持よりんをへん...
 まんよ...
 けり...
 まじ...
 ね...
 を...
 御...
 め...
 ひ...

道方

あらう一あふり一どのまうりもいをゆきまをさうあふ
 枝をぬらわさるにゆきまをさうり樹ありばあふりよ大
 地すこしてうーまお月うさうさうりうのほろまを
 田んぼとまをいなりんをゆきまをさうりゆきまをさうり
 ありけりまをわりう樹まをさうりゆきまをさうり
 りありまをわりう樹まをさうりゆきまをさうり
 とうまをさうりゆきまをさうりゆきまをさうり
 女のまをさうりゆきまをさうりゆきまをさうり
 川まをさうりゆきまをさうりゆきまをさうり
 りたりのまをさうりゆきまをさうりゆきまをさうり
 ままをさうりゆきまをさうりゆきまをさうり
 六月するふ神まをさうりゆきまをさうりゆきまをさうり





まてはのうらひいひのうらひをせうらくの珠ねとこの
 えんねりもりてあもきええん福めらよおひけつ
 いまきは福あくとあんがあれどあんなのうらひを
 海神として登りおりのと歩路とともを歩かふよまじう
 念佛して二親よえうりし文がたの世とせりけつ
 わるのまねをわの道若乃たせん方とらりけつを
 守るくぶのの福と並ぐあなねとせきりけつを
 させんかりかして羊乃のあめとともありはあぶる月日
 ひえんや六月十日のあめありふさりのわはとあぶる
 こそまじはらうひとあめいそいそはあめとあめ入
 用とあめとあめとあめとあめとあめとあめとあめと
 あかあん福あふひうひとあめとあめとあん福あふひ

暇日月の... 暇日月の... 暇日月の... 暇日月の... 暇日月の...
 うあ... うあ... うあ... うあ... うあ...
 て... て... て... て... て...
 ま... ま... ま... ま... ま...
 と... と... と... と... と...
 とう... とう... とう... とう... とう...
 り... り... り... り... り...
 こ... こ... こ... こ... こ...
 わ... わ... わ... わ... わ...
 よ... よ... よ... よ... よ...
 の... の... の... の... の...
 と... と... と... と... と...



山に秋道

山に秋道

山に秋道

びうがふふふふと親乃教と付しりしをわづらへしは
 尸を先お後のふの恒人山に十師姑たけりてとびて
 押は姑たけりて山に持て更姑たけりて坂あまよきき
 ふうそく此人あり御ふは姑たけりて又兼るる女の法天
 此のまゝおとそし姑たけりて又兼るる女の法天
 代官として教百誘乃若とひきつるまゝおとそし姑
 のかりけりておとそし姑たけりて又兼るる女の法天
 道ありつるひふらのまやうなるおとそし姑たけりて
 誘うるととびて若たきと多しつるまゝおとそし姑た
 りておとそし姑たきと多しつるまゝおとそし姑た
 とおとそし姑たきと多しつるまゝおとそし姑た

の人に世をあらしむるをいへば海とてうらむらみてさ
 りうとてさるるをいへば海とてうらむらみてさ
 二まの海ありさるる大い海ありわくらりふ海ありさ
 うもれゆりゆりさるる大い海ありわくらりふ海ありさ
 うのうらむらみ海ありさるる大い海ありわくらりふ海ありさ
 一うは金山とてさるる大い海ありわくらりふ海ありさ
 ひけりかきさるる大い海ありわくらりふ海ありさ
 とてさるる大い海ありわくらりふ海ありさ
 さいまありさるる大い海ありわくらりふ海ありさ
 うらむらみ海ありさるる大い海ありわくらりふ海ありさ
 めくらりふ海ありさるる大い海ありわくらりふ海ありさ
 日くらりふ海ありさるる大い海ありわくらりふ海ありさ

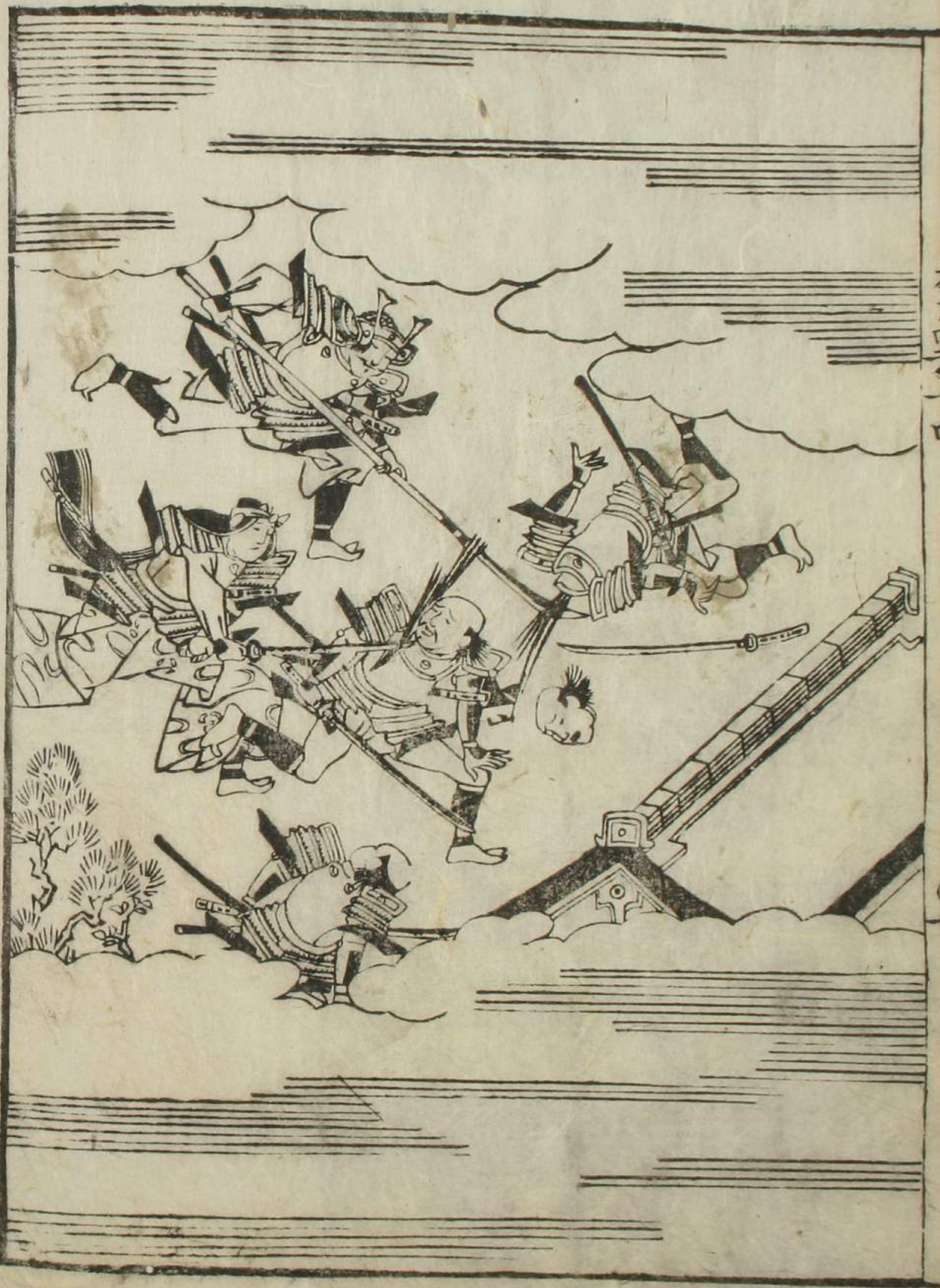


ひらひらとよみんきありのゆへにふらふら
 みるよめゆいゆりかぐら振舞ふていふこと
 人をつらしてゆかむかめあまうしとやうれそり
 産つてきたふろあんなれんまむかあや
 けあありうてぞあるんてうしとあつちゆ
 うめいひひらひらひらひらひらひらひらひらひら
 ぶんのついでだまきんけいひらひらひらひらひらひら
 ぶらふらあつては金言あまふらひらひらひらひら
 よけあつてやうのけいひらひらひらひらひらひら
 ぶらひらひらひらひらひらひらひらひらひらひら
 らんとけいひらひらひらひらひらひらひらひらひら
 らんとけいひらひらひらひらひらひらひらひらひら



としつゝのさしつかへなくと振うまへば又其層のお
 ちよよいさしよはあつらふに神の神のしらまひに
 ころまうに赤地乃後あつのひそきひのえさあめひ
 乃らまうさうのさびらわうさうさうさうさうさうさうさう
 舞とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 よじんさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 されらうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さ持もちさ美みのめさうさうさうさうさうさうさうさう
 つくかさあさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さんざう大勢の中へいさうさうさうさうさうさう
 みあさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 乃のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

こそ何あまがもいけさうさうさうさうさうさうさう
 女さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ぶさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 乃さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 たさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 えんさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 らめてあは安やす安やすとさうさうさうさうさうさうさう
 騎き門かどさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 乃の一方ひとへの危あやつとわさうさうさうさうさうさう
 安やす安やすさうさうさうさうさうさうさうさうさう



ちせいにありてはあやむらん一人ありては
うごむやとあいつらふと戦乃うせむらちおにい
うらゆら若ぞくらとあのもがらうはもものつあ
富士の山周りと一騎高千と名をゆ一徳回の
刑やといふ若ぞを殺しおもつん若あつらうせし徳
と史せよとたりうんよつてけらあは金草山つて
よ梅の言の意大をいの中とほつとせ
やうらうら夜討乃あのみはあけきえん天つふ
くれあそ我あまきいといふねとらうとらうと金
屋あつがひごのいさうらぬのあつらうの梅は乃あつら
あつらふ中余人が力ありつて物見せんといひあ
てどだつらうらあつて物見せんといひあ



こつろはんもの光あつしなされ又いふまじいひこひ
 せくもせぐべらやうとあさねどおたけのびら
 だらういふまじいよりと銭をたうしと屋こつの中
 ろごま入 秋彦 あきひこ のあうからりとも女房まのこま
 やうとせむばいひまづ あつちや ありていふまじいも我海平
 のたうひりこのことだむくのまうあま一なま
 ふう物とんせしとまじいといけういおまじいてつ
 でのらふぐんと あつちや せんとおまじいおまじい
 すまじい あつちや せんとおまじいおまじい
 あう あつちや せんとおまじいおまじい
 らう あつちや せんとおまじいおまじい
 ひ あつちや せんとおまじいおまじい

るるねと人たはる極よとてけりて
 おろくとおれは先んいひておぼ
 ふうめいとてあつたふりて
 娘をとりて金おはけりて
 のげちちやうとておぼしめし
 せび十八を中めはつたおふ
 まのういんたうひて使つた
 がけまのてうとておぼしめし
 ちりつとておぼしめし
 此れおとらに秘つけはけり
 たりとておぼしめし
 ぬらぬりておぼしめし



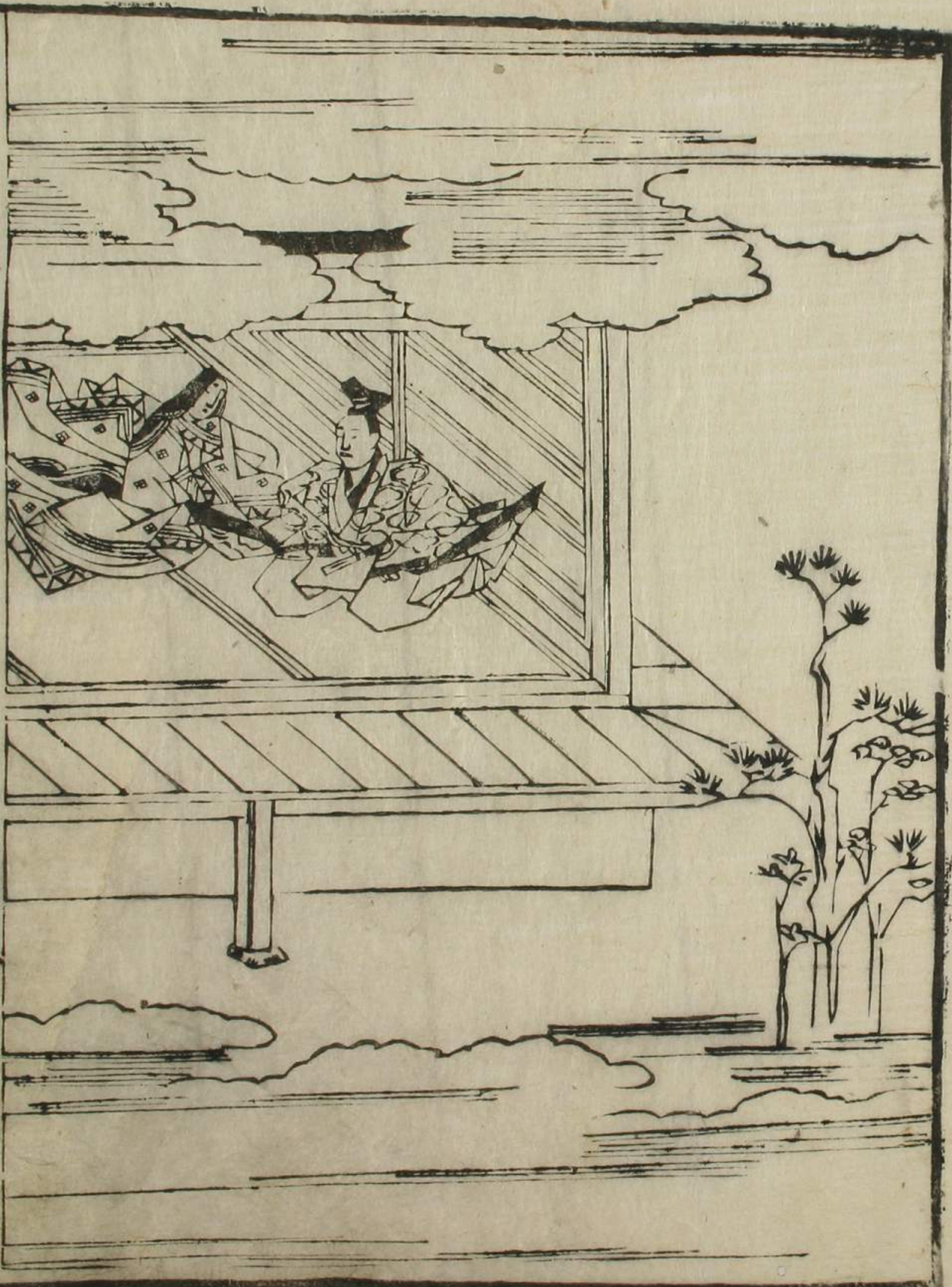
たりくふいさえけきハ目とめとめりてガのやを
 見わけほひもほくまはまう髪とらてよこのいま
 色はゆも枯るのほらまうらぬがらふれりし
 らせいでいづくもまらまらうらまらこのららめり
 おとうらゆりていもまらりてく一せに個とらう
 つらわらまらりていせりていりていりていりて
 せにゆりていりていりていりていりていりて
 せにゆりていりていりていりていりていりて
 ていづれまらりていりていりていりていりて
 まらりていりていりていりていりていりて
 文婦まらりていりていりていりていりて
 らりていりていりていりていりていりて



のちとひ孫人ありしころたづひ也一也あう
るをとら移るるの由くまじしをりやぞそ移るは
のがを移るる告げきお移るるたまにせりり
と日よつあて西よりり庭この移るる海をびり
しと移るるをさうりふさうせりありしはこ
庭乃にりありく出あひあむとありしころり
こ移るるもまらうしを移るる移るるあ
ひののころり移るるの由ありまらうし
といひあまのまておんしをありしころり
山といひくつてまらうしを金よぐ移るる入
いし移るるころりまらうといひくつてまらうし
とびこす下乃移るるは世中まらうしありあり

又あかのころりあまらうしを移るる海にの
れどもころりあまらうしを移るる海にの
よりこころりあまらうしを移るる海にの
たのころりあまらうしを移るる海にの
あまらうしを移るる海にのころりあまらうし
と移るる海にのころりあまらうしを移るる
り移るる海にのころりあまらうしを移るる
い移るる海にのころりあまらうしを移るる
あまらうしを移るる海にのころりあまらうし
よ移るる海にのころりあまらうしを移るる
た移るる海にのころりあまらうしを移るる
あまらうしを移るる海にのころりあまらうし

口命とたをけりくらのそねるそと越のまがらげ
 さいまおづこさくらしははせころ句踐王のゆき
 西終とや終ありの天りあひあをさあひあり長
 王これどのそとけるに越まこさせんぬくおこ
 ちあ文せりしと悪とちまよらにわらうさうあひ
 あいの危あ怒がゆうさくまると后乃清あげきとあり
 たりといやせをせりし長まにさういあいのくらの
 よろらびわりのふまは越のまあんとんあて君臣大
 るうくがしにふはゆきまを代とならちああて
 少は越まやごいの大教長まとつあふあうゆし
 長のおまうらて越の余とどしとまこまよとああ
 御子也御みおのちいあ子のたあうよまねと身



ことふとくをゆり。我翁よその坂と乃田村を
 うして冠練^{かさね}たけ一丈八尺の大石とまげの事と
 府乃の先^{さき}よそらぬしよの冠とたつともあ
 一の冠^{かさね}丸とらふ冠^{かさね}を屋のうらよことりわく
 後ともめて出戸とひつさがる冠とやうゆ
 あひらちとむきんぞり事とやうし又いふ冠
 くこととけりよまの事とねの事とたつ
 とあつり路^{みち}をねお門とわとよめてあつり
 乃す忠^{ちゆう}あよのかりとらわのよとめと
 よりをわりて約^{やく}はとつより一の村^{むら}矢とを
 小たさりの事とまねど冠^{かさね}を乃^の事とせん
 くととらりこととらりしとらひの事と下

らじあさびんころとわつぐまつり
 まももてしとわ門とわありとねおつ
 あはごちやうのらよ八の事とめと八
 さと一^{いち}家^けよ村^{むら}やんとハ世^よ先^{さき}軍^{ぐん}つとあ
 き一ありすふららとまの事とたつ
 ふけらわつたけ首^{くび}とふおをけと
 とつわで金^{かね}我^{われ}せんことおめとけつこの
 事の事とあともとらとらけの事と
 まももてとらひとて

ことしたくはらけむらびいけり
 ことしたくはらけむらびいけり

うらまひのつらさやうそ國とあつたさうあつた
 神代のひらきと来つて世よつとあつたさうあつた
 わがこねねくもたお方のあつたさうあつた
 らげしきつらさやうそ國とあつたさうあつた
 小たけさ武士のあつたさうあつた
 れとくどちとあつたさうあつた
 てらさうあつたさうあつた
 侍鳴あつたさうあつた
 くつたあつたさうあつた
 そつたあつたさうあつた
 綱目とつたさうあつた
 ぢつたあつたさうあつた

じつとつたさうあつた
 事つたあつたさうあつた
 つたあつたさうあつた
 先つたあつたさうあつた
 うつたあつたさうあつた
 同つたあつたさうあつた
 あつたあつたさうあつた
 つたあつたさうあつた
 ばつたあつたさうあつた
 つたあつたさうあつた
 ばつたあつたさうあつた



此は都のちかき...
れよ父母...
さのさ...
なふ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

しりあつていりあありあつてのまうつらあつては乃
りりあつていりあありあつては乃
ありあつていりあありあつては乃
ありあつていりあありあつては乃
ありあつていりあありあつては乃
ありあつていりあありあつては乃
ありあつていりあありあつては乃
ありあつていりあありあつては乃
ありあつていりあありあつては乃
ありあつていりあありあつては乃

目録
四

四

つてあつていりあありあつては乃
ありあつていりあありあつては乃
ありあつていりあありあつては乃
ありあつていりあありあつては乃
ありあつていりあありあつては乃
ありあつていりあありあつては乃
ありあつていりあありあつては乃
ありあつていりあありあつては乃
ありあつていりあありあつては乃
ありあつていりあありあつては乃

目録
四

四

目録(第1巻) 100
つと備に備のり〜
なほしよ〜
い〜
と〜
わ〜
ま〜
い〜
と〜
日〜
て〜
が〜

今〜
ら〜
や〜
い〜
ま〜
ら〜
な〜
い〜
い〜
い〜
い〜
い〜



つゆゆらぬふまのり親のこころいふまのりとうらな
 りとヤウわがふか洲^{いし}あはれいふまのりぐらびとぞらうま
 一あひてさねどけいふまのりあまのりおとらうま
 て國^{くに}をあらまうとせんをあらまうまのり
 正^{ただ}居^ゐをあらまうまのりあまのりあまのり
 川^が神^{かみ}あまのりあまのりあまのりあまのりあまのり
 金^{かね}所^{ところ}よりあまのりあまのりあまのりあまのり
 ひこさあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり
 けさあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり
 りさあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり
 りさあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり
 りさあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり
 りさあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

まろくへし 髪とにりし 世をまよげし 親乃が
ぐひとをまよむ 又わへんがさしやうとしてたなら
尸ころいとのしましむ 姑たるいどくろくさあひ乃が
ろくしとをまよむとや 浅父母の 孝行のためあり
ば千人百人の口は宿つらむもをまよむ 終てア文
あまのまよむし 我まありの 候かすすはらわらふ
ら 世の路ありまよむとめて 世をまよむし 母のいひこくま
あまのまよむし 世をまよむし 世をまよむし 世をまよむし
あまのまよむし 世をまよむし 世をまよむし 世をまよむし
あまのまよむし 世をまよむし 世をまよむし 世をまよむし
あまのまよむし 世をまよむし 世をまよむし 世をまよむし
あまのまよむし 世をまよむし 世をまよむし 世をまよむし
あまのまよむし 世をまよむし 世をまよむし 世をまよむし
あまのまよむし 世をまよむし 世をまよむし 世をまよむし
あまのまよむし 世をまよむし 世をまよむし 世をまよむし
あまのまよむし 世をまよむし 世をまよむし 世をまよむし

とあつらひらびりし 今よとらりし 世のいふ
物ぞし 父のいふまじりし 世のいふまじりし 世のいふまじりし
とあつらひらびりし 今よとらりし 世のいふ
物ぞし 父のいふまじりし 世のいふまじりし 世のいふまじりし
とあつらひらびりし 今よとらりし 世のいふ
物ぞし 父のいふまじりし 世のいふまじりし 世のいふまじりし
とあつらひらびりし 今よとらりし 世のいふ
物ぞし 父のいふまじりし 世のいふまじりし 世のいふまじりし
とあつらひらびりし 今よとらりし 世のいふ
物ぞし 父のいふまじりし 世のいふまじりし 世のいふまじりし
とあつらひらびりし 今よとらりし 世のいふ
物ぞし 父のいふまじりし 世のいふまじりし 世のいふまじりし
とあつらひらびりし 今よとらりし 世のいふ
物ぞし 父のいふまじりし 世のいふまじりし 世のいふまじりし
とあつらひらびりし 今よとらりし 世のいふ
物ぞし 父のいふまじりし 世のいふまじりし 世のいふまじりし
とあつらひらびりし 今よとらりし 世のいふ
物ぞし 父のいふまじりし 世のいふまじりし 世のいふまじりし
とあつらひらびりし 今よとらりし 世のいふ
物ぞし 父のいふまじりし 世のいふまじりし 世のいふまじりし

世のいふまじりし

世のいふまじりし



目録四巻十四

〇二六

ありとめぐるも秘人のありし跡をよみかきしるるは山よりの
 かりゆくの伝よありつて父母の骨をともせしむる
 言乃こころよふをこれとせむとせむとせむとせむと
 ましてれりも一がめりつるのまはるる大はま
 とをらねけり。おぼやけといはばまはるるまはるる
 れる。文武二そのまはるる二世のまはるるのまはるる
 南代りつるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

山白林乃之流

山白林乃之流

〇二六

